

第1学年 国語科の実践

1 単元名 おはなしをつくろう「音」をさがしておはなしづくり（全9時間 本時5時間目）

2 単元目標

・「音」を表す言葉を探して想像を広げ、お話を作ることができる。

3 「ひびきあう三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友達とひびき合いながら学習する子どもの育成

手だて・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ 感じる心・素直に表現する自分

・人の言動に何かを感じる姿・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現す

〈聴く・話すについての指導〉

「聴く」ことの指導として、人の話を聴く姿勢を整えることを重視した。具体的には、話をしている人の方に体を向けて聴くことや話を途中で遮らずに最後まで聴くこと、周りが騒がしいときには「話してもいいですか」という言葉に対して返事をしてから聴く姿勢をとること等である。「机も真っ直ぐ、背中也真っ直ぐ、心も真っ直ぐ」が合言葉で、いずれの指導も、話し手が気持ちよく話せるようにするためによい聴き手を育てることを大切にしている。

また、後期に入り、ただ話を聴くだけでなく、「似ています」「つけたしです」等と言いながら挙手したり、頷いたりする等、反応しながら聴くことにも力を入れて指導している。

「話す」ことの指導として、対教師では大きな声で話せるのに、隣の席の児童にさえも聞こえない声の大きさを話す児童が数名いた。自分の伝えたいことがあり、伝えたい人がある、安心して話せる環境を作ること意識してきた。朝のスピーチ(私の～は〇〇です。なぜなら～だからです。〇〇な気持ちになります。))は継続して行っており、楽しみにしている児童が多い。スピーチの後の質問も活発に交流があり、少しずつ相手を意識し話せるようになってきている。ノートには書けているが発表できない児童もいるので、ペアトークやグループでの活動(算数のジャマイカ)を取り入れ、自分の考えを言葉にして発する機会を設けて指導中である。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

これまで、学級目標や係活動・当番活動、班の名前などについて話し合ってきた。またいろいろな学習の中でも話し合っ問題解決をする機会を多く持った。初めは隣の人や近くの人と関わることができず、ただ顔を見合わせていたり、話そうともしなかったりという姿が多く見られていた。しかし、一人で考えてもなかなか考えが深まらない時や意見が出にくいときにはペアトークやグループトークの形をとるようにし、回数を重ねていくうちに、関わり合おうとする姿が見られるようになってきた。その場合は、ただのおしゃべりタイムにならないよう、全てのグループ、ペアが発表するようにしてきた。

国語科では、「いきもののあし」と「なぜでしょう」でクイズや答えの文を書き、2年生や友達に伝えてきた。クイズを作る際、「～って書いた方が分かりやすいよ!」「〇〇ちゃんの面白い!」など関わり合い、より良いものを作ろうとする姿が見られた。

(1) 単元と指導について

〈単元について〉

「音」をさがしておはなしづくりは、擬声語・擬態語に関心を持ち、創造活動を楽しむ単元である。擬声語・擬態語は生活の中でよく耳にし、児童の表現手段としては身近なものである。ひらがなを習得し、カタカナの練習に励んでいる児童にとってはカタカナへの興味を高め、練習する機会となる。1年生の「書く」ことでは「経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に着けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる」と明記されている。本単元では進んで書こうとする態度を育てるために、言語活動の基盤となる「音」集めを丁寧に行い、集めた「音」を使っておはなし

を作る活動を行う。集めた「音」を共有することで、素地の差を少なくし、多様な表現があつていいことを理解し、おはなし作りを進めていけると考える。絵を見て想像を膨らませることで、文を書くことが難しい児童も書きたいと思える単元である。

〈指導について〉

子どもたちは4月から様々な言葉と触れ合ってきた。ひらがなの練習に始まり、物語文、説明文、詩、はがきの書き方、絵日記の書き方などである。学習のたびに新しい言葉に触れ、理解し、増やしてきたが、書くことで使える言葉はまだ少なく、作文を書くとき動作や様子、気持ちを表す言葉として使えるものがあまりに少ない。そこで、主語・述語の学習をしたところで、3つの絵を用いて簡単な文を作る。そこで、詳しく表す言葉として擬声語・擬態語を使って表現している児童を取り上げる。その後生活経験の違いなどで獲得言語の数に大きく差があるため、学習する上での素地として同じ環境の中での「音」探しを行う。そこで、実際に聞こえる「音」と様子を表す「音」があることに気が付く児童がいると思われる。そこで、集めた音を分類してみる。すると今までは「音」だと思っていたので使っていた言葉や、聞いたことがあっても使ったことのない言葉があることに気付く。そして「友達同士関わり合いながら、新たな表現に出会って上手に使ってみたい」という思いになるだろう。その「音」を使い、再びおはなしを作る。「友達のおはなしを聞き、進んで「音」を使っておはなしを書こうとする姿」をひびき合う姿としたい。また、1年生は相手を意識して書くのではなく、進んで書こうとする態度を育てることが目標とされているが、創造活動を楽しむ一つの手段として「読み合いっこをする」ことを伝え、互いに自分の書いた文を読み合い、良いところや気に入ったところを見つけ感想を伝え合う活動も取り入れていきたい。

5 単元構想

1年国語 「音」をさがしておはなしづくり

全8時間 本時5時間目

単元目標

○「音」を表す言葉を探して想像を広げ、お話を作ることができる。

おはなしをつくろう

絵を見て想像したことをもとに簡単なお話を書くことができる(書く)

えにあうおはなしをつくってみよう①

擬声語・擬態語を用いている児童を取り上げ、それらを使うことで話の表現が深まったり、想像が膨らんだりすることに気付かせるようにする。

- ・絵を見てお話を作って楽しいね。
- ・詳しくする言葉をたくさん使ってみよう。
- ・絵の中の誰のことを書こうかな。
- ・面白く書こう。
- ・みんなはどんなお話を作るかな、知りたいな。

学習問題

- もっといろいろ書いてみたいな！
- もっと面白く書けるようになりたい！
- お話を書いてみたいな！
- 本を作ってみたいな！

擬声語・擬態語に気付き、書くことができる(伝国)

「音」がんばリストになろう②③

擬声語・擬態語たくさん触れ、新しい言葉や表現を使ってみようと思えるようにする。カタカナの学習と並行してカタカナへの興味を深める。それぞれの表現が違うこと、間違いがないことを確認する。書いたものを読み合い、良いところ・真似したいところを見つけ感想を伝え合う。

どんな「音」があるかさがしにいこう

- ・「音」にはどんなものがあるのかな。
- ・たくさん「音」を見つけないな。
- ・校庭に行って探したいな。
- ・友達に知らせたいな。
- ・友達が見つけた「音」も知りたいな。

太陽がぴかぴか・葉っぱはひらひら・みんなにこにこ
飛行機がキーン・水たまりがピチャピチャ・工事の音がゴンゴン

みつけた「音」を知らせよう

- ・平仮名とカタカナ、どっちで書くのかな。
- ・こんなにいろんな「音」があるんだな。
- ・あれ？同じ葉っぱなのに「音」が違うな。
- ・にこにこも「音」なの？

「音」をつかっておはなしをつくってみよう④⑤本時⑥

絵を見て想像したことをもとに「音」を使ってお話を書くことができる(書く)

擬声語・擬態語を使って、お話を作ってみよう、読んでもらいたいと思えるようにする。

- ・面白そうな絵だな。
- ・みんなはどんな「音」を使っているのかな。
- ・つなげる言葉も使ってみよう。
- ・はやく読みたいな。

おはなしのつづきとだい名をつくってみよう⑦

おはなしをよみあひっこしよう⑧

6 本時について

(1)本時目標 絵を見て想像を広げ、「音」を使っておはなし作りを楽しむことができる。

(2)本時展開

学 習 活 動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
	1 本時のめあてを確認する。 ○前時に一つ目の絵を見て書いたおはなしと「音」を書いた短冊を用意しておく。 ○今日やることを確認することで学習意欲を持てるようにする。 ○1年2組の聴く・話すを意識できるようにする。 ○自分の考えた「音」を黒板に貼り、意思表示をする。 ○どんな「音」だったのかを発表し、それを聞いて二つ目の絵のおはなしづくりのヒントにできるようにする。 ◆おはなしを進んで書こうとしている。 【関心・意欲・態度】 ◆絵を見て想像を広げ、「音」を使っておはなし作りを楽しむことができる。【書く】

7 実践を終えて

(1)本時に至るまで

主語・述語の学習に取り組んだ際、詳しくする言葉があることに気が付き、擬声語を使った子がいたためその文を紹介した。すると子どもたちは使ってみようという気持ちを持った。そのため、擬声語・擬態語が見つけれそうな3コマ漫画を使い簡単なお話作りに取り組んだ。作ったお話を読み合い擬態語や擬声語を使うことで、様子がよく分かり話が面白くなると気付いた子が多かった。擬声語・擬態語を使い、音や様子を表しているものを選んだ子が多かった。それらを紹介し合ううちに、「お話をもっと書きたい」「詳しくする言葉を使いたい」「音のことは探したい」という願いが生まれた。そこで、獲得言語の差が大きいため、共通の土台作りをするために「音ががんばリストになろう」という目標を設定し音探しを十分に行った。すると、自分や友達が見つけた音のことは使って、お話を作りたいという思いが大きくなり本時を設定した。

(2)本時での様子

3つの場面の絵とその続きを想像して書くという学習の2つ目の絵の場面に取り組んだ。前時に1つ目の場面で見つけた音の言葉を発表し、動作化して理解を深めたり、道具を使って詳しく説明したりした。自分の見つけた音だけではなく友達の見つけた音にも興味を持って聞くことができた。同じ絵でもいろいろな音の言葉が見つかったので、2枚目の絵のおはなしも音の言葉をを使って書いてみることを意識させた。しかし、2枚目の絵を見せる前に「この後どうしたいか？」と聞いたので、「飾りたい」「読み合いたい」など1枚目で完結してしまいお話の続きに意識が向いた子が少なかった。そのため、「続きのお話を書きたい。」という言葉は、言わせる形になってしまった。また、1時間で2つの場面を凝縮して学習するのではなく、1場面にしばったほうが子どもたちは考えやすかった。しかし、普段、文章を書くことが難しい子も、進んで書く様子が見られた。音の言葉も擬声語だけでなく擬態語を使うことができていた。

(3)成果と課題

・成果

おはなしを書きたい、書くことが楽しいという意識が育ったことで書くことへの抵抗が無くなり、文章を詳しく書いたり、取り掛かる時間が短くなるなど意欲的に取り組む姿が見られた。また、友達の見つけた音の言葉やおはなしの中で、良いところを見つけたり分からないところを聞いたりする関わり合いが見られ、自分が見つけた音の言葉を友達に分かるように説明したいと自分から前に出て発表する姿が見られた。

・課題

本時のめあてを始めに提示せず授業を進めたため、途中まで子どもたちは何をめあてとし学習するかがあいまいになってしまった。また、音の言葉が多く出たので、同じ言葉は重ねて貼るなど黒板を見やすく整理する必要があった。友達の見つけた音の言葉も使えるようにするために、動作化に時間を取り、わからない言葉を丁寧に確認する必要があり、その際大きな声で発表できる子ばかりではないので、場面によって(言葉を動作化するとき、書くときなど)学習形態を変えて全体に聞こえる工夫をする必要があった。